

**学校法人酪農学園
酪農学園大学短期大学部
機関別評価結果**

平成 20 年 3 月 19 日

財団法人短期大学基準協会

酪農学園大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 酪農学園
理事長名	麻田 信二
学長名	谷山 弘行
A L O	佐々木 均
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	北海道江別市文京台緑町582番地

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
酪農学科		50
	合計	50

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

酪農学園大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 20 年 3 月 19 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 18 年 6 月 26 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

当該短期大学の建学の精神と教育理念は、併設の大学と同様、キリスト教精神に基づく人間教育を柱に「健土健民」「三愛精神」「実学教育」「循環農法」の四つのキーワードとして明確に表現されている。また、その背景、教育目的、教育目標が、学生および教職員に具体的に明示されるとともに様々な機会を通じて周知する努力がなされている。

当該短期大学は、1 学科、収容定員 100 名の小規模編成であり、教育・研究、学生支援、管理・運営など、そのほとんどすべてが同一キャンパス内の併設大学と一体的に行われている。学科の規模と特性などから理解できる点もあるが、短期大学としてのアドミッション・ポリシーや独自性を明確にする必要があると考えられる。

教育課程は、実学教育を中心に編成されているが、カリキュラムにおける必修・選択科目、専門・教養科目のバランスが取れており、クラス規模、授業形態も適切で設置学科にふさわしい内容とレベルを有している。また、学生の学習意欲やニーズに応えるため併設大学や近隣大学との単位互換制度、資格取得への配慮など、履修への工夫もなされている。教員組織は短期大学設置基準を充たしており、各教員は、教育・研究における十分な資格と資質を有している。将来的には、学科教員の年齢構成のバランスに留意が望まれるが、各教員は併設大学の教育も担当し、また研究活動、社会活動にも、意欲的、積極的な姿勢が認められる。学生教育や学生支援などは、小規模編成の利点をいかして、きめの細かい対応がなされている。施設、設備、備品も充分整備され、特に、併設大学との共通、共用部分を含めると極めて恵まれた教育・研究環境と生活環境が維持されている。その結果、卒業生の 40% 近くが併設大学の同系分野の学科に進学し、就職者の 80% 以上が農業関連業種に就いていることなどを勘案すると、教育目標の達成度と教育効果は高いものと評価できる。

管理・運営にかかわる理事会、教授会、各種委員会、事務組織、人事管理などは、すべて併設大学と合同あるいは協働して行われている。教学に関する審議プロセスや手続きは短期大学としての独自性の観点から、改善すべき点がある。学校法人の経営

状況はおおむね良好であり、財務体質も健全であるが、短期大学単独では若干の支出超過が認められる。現状では、学生の収容定員数はおおむね維持されているが、学生定員確保に留意が望まれる。

今後、併設大学と合同で行われている教授会、各種委員会などの規程の整備と短期大学の改革・改善に向け、定期的、組織的に検討するためのシステム構築が望まれる。

2. 三つの意見

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 道内各地の酪農または関連業種における現状と問題点などを学ぶ教員の現地研修を継続的に行い、建学の精神や教育目標の再認識を図っている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 英語嫌いの克服と酪農学科の特色をいかした「酪農英語」科目の設定とその講義内容は興味深いものであり、英語教育の新たな試みである。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教育活動に必要な教務事務を補佐するパート職員が教員 2 名に 1 名の割合で配置されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 酪農学科という学科の性格上、志望動機の明確な学生、目的意識の高い学生が入学していることとも関連し、専門就職先への就職率が高い。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 共通教育開発室を設置し、常時アドバイザーを配置している。
- 学生の保護者、同窓生、大学職員で組織された学生生活援護会が、クラブ活動に経済的支援を行っている。

評価領域Ⅵ 研究

- 小学校・中学校・高等学校の教員らとの共同研究の実施とそれに対する研究助成は意義あるものである。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- エクステンションセンターを中心に、多数の公開講座、地方自治体などと連携して行う「提携講座」などが開催され、地域社会の文化・教育・生活等の活性化への取り組みや同センターで発行している月刊「酪農ジャーナル」は高い貢献度が認められる。

評価領域IX 財務

- 1学科で収容定員100名と小規模にもかかわらず、教育研究経費比率が30%以上あり、短期大学の教育研究の質的低下が起きないように配慮されている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 短期大学としての独自の教育目的と教育目標を具体的に明示するとともに、短期大学に特化した内容について、適切な表記を行うことが望まれる。

評価領域II 教育の内容

- 専門科目および必修科目において、特に学科教育の主要な位置づけにある科目については、なるべく短期大学所属の専任教員の配置を行うことが望ましい。

評価領域IV 教育目標の達成度と教育の効果

- グレード・ポイント・アベレージ(GPA)の成績評価において、S評価に科目間の大きなバラツキがあるので、ガイドラインの設定、具体的割合の提示などの検討が望まれる。また、GPAの有効な活用法についても検討が望まれる。

評価領域V 学生支援

- 入学案内などに短期大学として独自の教育目標、アドミッション・ポリシーを明記することで、短期大学の特色がより明確にできると考えられる。

評価領域VI 研究

- 科学研究費補助金の獲得に向けて申請件数の増加が望まれる。

評価領域VIII 管理運営

- 短期大学は独立した組織であるので、教授会運営についても具体的に規定するとともに、協議会、各種委員会についても規程化することが望まれる。

評価領域IX 財務

- 財務体質が学校法人への依存度が高いことを認識し、将来、短期大学の方針・構想を明らかに示すとともに財務改善に向けた運営が必要と考えられる。

評価領域X 改革・改善

- 同一学園内における併設大学との関係、短期大学の位置づけ、設置学科の規模などから現状はよく理解できるが、組織上、短期大学は独立していることから、大学と同一の実施体制やシステムのみでなく、改革・改善に向けた独自のシステム構築が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項
なし

3. 領域別評価結果

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

創設者らの意思を受け継ぎ、キリスト教精神に基づく人間教育を柱に、建学の精神と教育理念を「健土健民」「三愛精神」「実学教育」「循環農法」の四つのキーワードとして明確に表現し、その背景、教育目的、教育目標などが、入学案内、大学要覧、その他多くの印刷物に具体的にわかりやすく明示されている。また、建学の精神や教育理念の理解を図るため、学生に対しては、オリエンテーション、ガイダンス、学校礼拝などの機会を通じて周知する努力がなされ、教職員においては、研修会や教授会などにおいて情報の共有化が図られている。また、教育目的・教育目標の点検も併設の大学と合同で行なわれている。

教員が、酪農または関連業種において現地研修を行い、現状や問題点を学ぶことにより、建学の精神や教育理念、さらには教育目的や目標などを再認識する機会としていくことは評価できる。ただし、短期大学独自の教育目的・教育目標の明確化については、改善の余地がある。

評価領域Ⅱ 教育の内容

設置学科の教育課程は、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標に基づき体系的に編成されている。また、教育目的・目標を具現化するために、実学中心の教育が行われており、学生が興味をもって学べるよう工夫がなされているとともに同じ専門領域をもつ併設大学と相互に協力した教育が行なわれている。カリキュラムは必修・選択のバランスが適切に整備・統一され、短期大学にふさわしい内容とレベルを有している。学生の学習意欲やニーズに応えられるよう、併設大学、近隣の大学・短期大学などとの単位互換制度、資格取得への配慮など、履修への工夫がなされている。特色ある学科として、クラス規模、授業形態ともにバランスが取れており、適切な教育

体制と教育環境であることを認める。シラバスは、学生の理解しやすい内容となっており、評価方法や注意事項にいたるまで詳細な説明がなされていて、履修意欲喚起の一助となっている。教育内容や方法に関する工夫・改善などへの取組み、教養教育充実への取組みなどは、併設大学と合同で組織的に実施されている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織は、短期大学設置基準に規定された必要教員数を充足しており、設置学科に合った資格と資質を有している。教員の採用や昇任は、選考基準が整備され、適切な運用がなされている。若年教員が少なく、教員の年齢構成のバランスに留意が望まれるが、各教員は併設大学の教育も担当し、意欲的、積極的な取組みが認められる。教育実施に当たる責任体制は明確にされており、学長のリーダーシップのもと、組織的な対応がなされている。校地、校舎の面積は、短期大学設置基準を十分に充たしており、また、講義室、実習室、情報機器を設置するパソコン教室、授業用の機器・備品なども充分整備、活用され、併設大学との共用部分も含め快適な教育環境となっている。図書館の蔵書数、面積などは、併設大学と共用であり、短期大学としては恵まれた環境となっている。また、図書館関連の諸システムは確立され、学内外への情報発信や地域との連携など、サービス体制は適切に機能していて、学生への活発な利用を促すための努力もなされている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

授業の単位認定方法、成績評価方法などは適切であり、退学、留年などの学生数は少なく、学生の単位取得状況はおおむね良好である。また、設置学科は1学科のみで、収容定員も少ないので、教育上もきめ細かい対応がなされており、学生の理解度を高めるための努力と工夫もなされている。その結果、卒業生の30～40%が併設大学の酪農学部へ進学し、就職者の80%以上が学科の特色をいかした農業関連の業種・職種に就いていることは、学科の設置目的を十分に果たしているとともに、教育目標と教育効果が達成されているものと評価する。また、卒業生の就職先企業との懇談会なども実施し、情報交換を行っており、卒業生に対する就職先からの評価も良好である。今後さらなる向上を目指して、卒業生の動向、アフターケア、在学生への情報のフィードバックなどに対して具体的、組織的な取組みが期待される。

評価領域Ⅴ 学生支援

多様な入学試験制度が整備され、入学志願者に対し、教育理念、教育目的や目標、求める学生像などの情報が提供され、入試は公正かつ適切に運用されている。短期大学には志望動機の明確な学生あるいは目的意識の高い学生が入学しているので、学習支援の方法は統一されており、情報提供や学生への対応も組織的に適切に行われている。学生生活の支援に関しては、特にクラブ活動の重要性が認識されており、学生は

積極的にクラブ活動に参加している。また、クラブ活動の支援体制も確立されている。学科の性格上、学生には酪農・農業の後継者が多く、専門分野への就職率が高く、また、約 4 割の学生が併設大学に進学していることなどから、進路支援体制が組織的に機能していることを認める。多様な学生に対する受け入れ体制は整っており、入口から出口までの学生支援は組織的に十分に図られていると判断する。これらの支援体制や組織は、ほとんどすべてが併設大学と共通であることから、今後、短期大学生を意識した支援体制にも留意が望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

教員のほとんどは併設の四年制大学との兼任となっており、短期大学においても四年制大学と同レベルの研究業績が求められている。そのため、論文発表、学会活動、国際会議出席などは活発であり、その成果の公表も適切になされており高く評価できる。外部資金については、科学研究費補助金の獲得には至っていないが、今後、申請件数の増加に向けた努力が期待される。なお、幌加内町および（独）農業・食品産業支援機構からの資金調達の実績があり、それらの努力は評価に値する。教員の研究経費は職階別に明示されており、その研究成果の発表機会も、関連学会、年 2 回の研究紀要発行などで確保されている。また、実験科学系学科としての教育研究経費は適切な範囲で支出され、教員の研究環境は適切に整備されていると評価できる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

「健土健民」の建学の理念のもと、社会的活動への積極的な参加について明確な位置づけがなされ、エクステンションセンターを中心に様々な公開講座が積極的に展開されている。地域連携も充分図られており、地域の産業、文化、生活、教育などへの多大の貢献が認められる。特に、同センターによる月刊「酪農ジャーナル」の発行は、その内容も含め高く評価できる。また、牛乳の消費拡大運動を目的に設立した学生主体の「もうもうクラブ」の活動が地域社会へ貢献するとともに、短期大学側も単位認定も考慮するなど積極的な評価がうかがえ、学生の社会活動を支援・促進していると評価できる。さらに学生の短期留学派遣が平成 16 年 2 名、平成 17 年 4 名の実績があり、また教員の留学が 2 名（各 1 年）、海外派遣が 2 件、国際会議出席が 7 件あり、国際交流や国際活動への取組みもおおむね良好と判断する。

評価領域Ⅷ 管理運営

私立学校法および学校法人の寄附行為の規定に基づいた組織が確立され、管理運営にかかわる理事会、常任理事会、評議員会など相互の機能的な役割分担が明確になっている。また、学校法人においては、理事長のリーダーシップが、短期大学においては、学長のリーダーシップがそれぞれ適切に発揮された管理運営が行われている。教授会や各種委員会などの短期大学の管理運営はすべて併設大学と合同あるいは協働し

て行われているが、教学に関する審議プロセスや手続きについては、短期大学の特性を考慮すべきである。

事務部門は大学と附属施設を併せた共通の事務組織となっているが、学校法人と教職員、教員と職員の関係が密接で、それぞれ連携・協調できる管理体制が構築されている。組織の整備、人的・物的整備や管理、規程の整備なども適切に行われており、総体的に良好な管理運営がなされている。

評価領域Ⅸ 財務

学校法人の教育計画と財政の見通しに基づいた「中・長期計画」「'04 教育・財務中期計画」などが策定され、事業計画・予算に反映されている。これらは関係部門に速やかに周知され、経理規程に則って適切に執行されており、財務・経理・出納の各業務は必要な承認手続きが行われ、おおむね適切である。また、監事、公認会計士の監査機能は有効に働いており、学校法人の財務運営は適切と判断できる。学校法人の収支状況、資金等の維持管理の状況、余裕資金の管理状況など特に問題はなく、総合的に財務体質は健全といえる。ただし、短期大学としては入学定員充足率が 100%に達しておらず、消費支出比率も支出超過となっており、財務体質は併設大学を含めた学校法人への依存度が高いといわざるを得ない。短期大学に必要な施設設備は関連規程に則って整備され、その管理も学校法人全体で管理が行われている。施設の安全対策、省エネルギー・省資源対策、環境保全にも配慮され、附属農場の乳牛の糞尿を発電に利用することや消化液を液体有機肥料として利用することなどにより温暖化ガスの排出や化学肥料の減少など成果を上げている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価は、関連規程が整備されており、その規程にしたがって「自己点検・評価運営委員会」「自己点検・評価実施専門委員会」などの組織により、併設大学の酪農学部と合同で、定期的実施されている。短期大学独自では、カリキュラムの完成年度に合わせて自己点検・評価を行い「2001 年度酪農学科教育目標・カリキュラム改訂の検証」とし、外部評価委員の意見も含め報告書として公表している。また、自己点検・評価の結果は、関連部局および「教育・研究推進委員会」などにフィードバックされ、さらなる検討を経て、様々な取組みに反映するよう努めている。なお、自己点検・評価の実施体制および改革・改善のためのシステムなどは、併設大学の酪農学部には組込まれており、短期大学独自のシステムは構築されていない。短期大学が 1 学科のみで学生数なども少ないことと、併設大学にも同様の学科が設置されていることなどを勘案すれば理解できる点も多いが、短期大学独自の改革・改善に向けた適切なシステム構築についての検討が望まれる。